

パソコン同好会 10月例会資料

パソコンのメンテナンス 総集編その2

1. システムの設定変更で「C」ドライブの空き容量を増やす

システムの設定を変更するという事は、何らかの制約を加えること。

その制約以上に、「C」ドライブの空き容量確保が優先する場合に実行したい。

1) 「システムの復元」対策

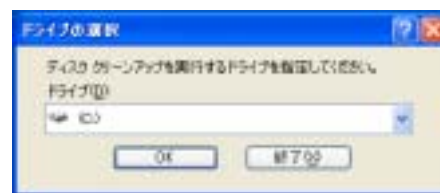
(1) 「復元」に必要な「バックアップデータ」を削除する。

「システムの復元」画面
「システムの復元の開始」画面から「復元する」を選択し「次へ」で表示される。

「復元のポイント」が太字の
時点でのシステムに復元される



「スタート」「すべてのプログラム」「アクセサリ」「システムツール」「ディスククリーンアップ」を選択する。
「ディスクの選択」画面が表示される。
ドライブが「C」であることを確認し「OK」ボタンをクリックする。



「ディスククリーンアップ」の画面が表示され、「確保される空き領域の計算」に続き、クリーンアップ実行画面が表示される。
続けて「詳細オプション」タブを選択する。
「システムの復元」欄の「クリーンアップ」をクリックし、「OK」ボタンを押す。



(2) 「システムの復元」 割当てられている領域の制限

XPの初期値では、「C」ドライブの10%程度が設定されている。ドライブの総容量にもよるが、新たなアプリケーションのインストールをする場合には、初期値に一旦戻すことが必要になる可能性がある。

「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」を開く。

「システムのプロパティ」が開かれる。

続けて「システムの復元」タブを開く。

「システムの復元」タブを開く



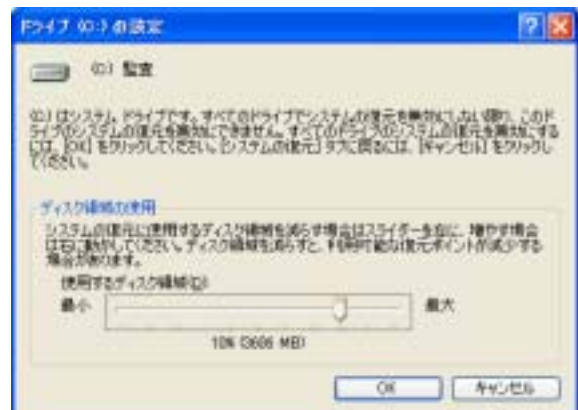
「ドライブ」の「C」を選択し
「設定」ボタンをクリック。

「ドライブCの設定」画面が表示される。

現在（初期値）の設定値が表示されている。

スライダを左右に動かして設定を変更する。

念のため、「システムの復元」を起動し、現時点を復元ポイントに設定しておく。



参考 「システムの復元」のための、サービスがバックグラウンドで常に稼働している。

そして、24時間毎にシステムの状態を自動保存している。

また、アプリケーションやドライブのインストールなどシステム構成が変更された場合も、自動的にシステムの状態を保存する。

復元の実行時には、カレンダーから任意の復元ポイントを選択し復元する。この場合、選択した復元ポイントより後にインストールしたアプリケーションなどは、再インストールが必要になる。

2) フォントの削除と移動

削除に自信がない場合は、外付けドライブに保存し、必要な場合に元に戻す。

「コントロールパネル」から「fonts」を開く。又は「スタート」「ファイル名を指定して実行」を開き、「fonts」と入力。

「フォント」の一覧が表示される。

削除対象としないフォント アイコンが赤い「A」のフォント
名前が「MS」で始まるフォント
移動でエラーとなるフォント

Dドライブ又は外付けドライブに、移動先フォルダ「fonts」を作成する。

移動先フォルダ「fonts」を開く。

フォント一覧から、「fonts」に「移動」する。

フォント一覧から、移動又は削除するフォント(アイコン)を開き、フォント(字体)を確認し、削除又は移動の区分をする。

なお、余談ながら日本語は4バイト、英字は2バイトで日本語文字を対象とする方が効果的だ。

3) 「キャッシュ」の容量を制限する。

「キャッシュ」とは、HDDに保存されるウェブページのデータのこと。

次回にそのページを閲覧する場合、新たなダウンロードするよりHDDのデータを読み出す方を選択する目的で、作成される。

昨今では、PC自体の高速化や通信回線の高速化も加わり、「キャッシュ」自体が保存されることに意味がない。

さらに、蓄積された「キャッシュ」の削除も、容易に行える環境にあるがHDDに保存される条件に変わらない。

「C」ドライブの空き容量確保の一助に、「キャッシュ」に割り当てする領域の縮小を行う。

「コントロールパネル」「インターネットオプション」の順に開く。

「インターネットのプロパティ」が開く

「閲覧の履歴」欄の「設定」をクリック。



